

## 第1回各務原市多文化共生推進プラン策定委員会 議事概要

日時	令和3年10月8日（金） 13時30分～15時00分
場所	産業文化センター4階 第2学習室
出席者	委員：近藤敦委員長、小山真紀副委員長、各務真弓委員、 葛西俊夫委員、横前三香子委員、鷺崎純一委員、 長岡クラウジオ委員、北角浩一委員、浅野幸子委員、 サカクラブルノ委員、ブルゴスカルロス委員 事務局：各務原市役所観光交流課 富田課長、川上課長補佐、奥村主事 ：各務原市 田中国際交流員
欠席者	2名（土井佳彦委員、大畑英樹委員）
協議事項	(1) 多文化共生推進プラン (2) 各務原市の現状について (3) アンケート調査について (4) 今後のスケジュールについて

### 1. 開 会

### 2. 委嘱状交付

### 3. 市長挨拶

### 4. 委員会の設置について

委員からの推薦により、委員長には近藤敦様、委員長の指名により副委員長には小山真紀様が選任された。

### 5. 協議事項

(1) 多文化共生推進プランについて・(2) 各務原市の現状について

#### 【事務局説明】

#### 【北角委員】

資料1、図5にある、永住者と定住者の違いは何か。

→

主な違いとしては、ビザの更新が必要かどうかである。永住者はビザ更新が不要で、在留期間も無制限である（ただし、在留カードの更新は必要）。定住者は日系人や日系人の配偶者・子どもなどで、資格の更新があり、在留期間は6か月、1年、3年、5年がある。

永住者は、日本に10年以上継続して在住し、素行が良好で自分で生計を営むことができ、その者の永住が国の利益に合すると認められることで得られる在留資格となる。

**【小山副委員長】**

資料1の7ページの図12、図13のところの、おそらく意識調査かと思うが、実際に外国人住民の方とふれあいや接点のある人が実態として回答しているのか、イメージとして回答しているのかどちらかということが聞きたい。

→

**【事務局】**

市が無作為に抽出した市民を対象に調査しているため、実態と合っているとはいいいがたい。

**【小山副委員長】**

人権を守るために必要だと思うことが実態と違うと、これをベースに考えると少しちぐはぐなことが起きるかもしれない。実態と調査結果の差異はどうなのか確認した上で考えたほうがいいと思う。

→

**【事務局】**

この意識調査の結果だけではなく、今回行うアンケートやヒアリング調査で実態を把握していきたいと思う。

**(3) アンケート調査について**

**【資料を用いて事務局より説明】**

**【小山副委員長】**

このアンケートでは困りごとの話が主体のため、もう少し「市民としてもっと貢献したいこと」「住民としてもっとこんなまちであつたらいいな」など、そのような視点の話が出てくるといい。

また、日本人市民と外国人市民に同じ質問をし、日本人市民にはこのように見えているが、外国人市民にはこのように見えているという目線の違いが明らかになったほうがいいと思う。

この設問はいつまでに決めないといけないというスケジュールはあるのか。もし時間があるのであれば、多様性や目線の違いなどの視点で少し気づいた点など、皆さんから意見が出されるといいのではと思う。

#### 【各務委員】

例えば多文化共生の取り組みについて、外国人市民と日本人市民の双方に同じ設間で、回答の結果を比べられるようにするのが良いと思う。

また、転勤してきた方や勤務先が各務原市に近い住んでいる日本人もいると考えられる。定住意向について同じような設問にすれば両方の意識がわかると思う。「各務原市をどう思っているか」「どのように公の施策を受け入れて住みやすいまちにしていくか」について、両方から聞いた方がいいと思う。

→

#### 【事務局】

外国人市民の活躍ということを前面に出してしまうと全体像が見えなくなる。初めて作る計画のため、実情として、全体的にどういう課題があるのかを、アンケートで聞くとともに、外国人市民と日本人市民の意識の違いについて、設問を追加できるか検討していきたい。

また、アンケート調査と同時に、各団体にヒアリング調査を行う。「市民としてもっと貢献したいこと」などについては外国人市民団体に個別にヒアリングをして、アンケートで聞くものとを区別しながら、2つの調査を関連させて分析する。

#### 【小山副委員長】

アンケートの対象はランダムにするのか、地域ごとに人数を振り分けるのか、そのあたりはどうか。

→

#### 【事務局】

基本的にはランダムにする。

→

#### 【小山副委員長】

ランダムにすると、ほとんど外国人市民との接点がない人が多く選ばれる可能性がある。外国人市民と関わりの多い人に聞いたほうがいいのか。おそらく設問の内容によって違うと思うが、そのあたりはどうか。

#### 【近藤委員長】

接点がある人はヒアリング調査でカバーするので、ランダムにアンケートで聞くことで全体の意見がわかるのだと思う。

しかし、外国人市民で日本語があまりできない人には回答するのが難しそうに思う。多少、無理だと思っても渡すのか、それとも翻訳できる言語だけで聞いたほうがいいのか。その対応はどのようなものか。

→

#### 【事務局】

翻訳はポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語を考えている。各務原市内の外国人人口は1位がブラジル、2位と3位がベトナムとフィリピンで人口は同程度となっている。フィリピンの方は英語をある程度話されるため、ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語でおおよそカバー

できる。それ以外の方は申し訳ないがやさしい日本語で対応しようと考えている。

**【小山副委員長】**

アンケート形式のことだが、回答率を上げるならネットでのアンケートという形はどうか。言語ごとにフォームを変えればいいと思う。

例えば Google フォームだと全世界でアンケートを実施しているため、設問は各言語で用意しておくとしても、システム上の表示（進む、戻るなど）などについては、回答する方が使っている言語で表示されるのではないかと思う。

※設問を google 翻訳するという意味ではない。進む、戻るのボタンなど、システム上の表記は、表示する言語に合わせて表示されるという意味（日本語のみ対応のシステムだと、設問を多言語にしても、進む、戻るのボタンなどシステム上の表記が日本語になってしまうため、操作がわかりにくくなる）である。

**【ブルノ委員】**

Google の翻訳はメジャーな言語だときちんと表示されるが、マイナーな言語やあまり扱われないう言語だと、経験上ではおそらく、変な訳し方になる場合や、質問の意味がまったくわからなくなる可能性もある。

そのこと以前に、外国人市民は皆さんスマートフォンを持っているが、アンケートに回答してもらえネット環境などの仕組みを考えることの方が難しいと思う。

**【各務委員】**

ワクチン予約にあたり Google フォームを使い 4 カ国語で実施したことがある。

行政はセキュリティの関係でできなかったため、国際交流協会がその Google フォームの書式を作った。アンケートの書式に、翻訳したものを使用できると思う。後はセキュリティの関係で行政や業者ができるかどうかだと思う。

→

**【事務局】**

オンラインでできないか検討していきたい。

**【各務委員】**

先ほどブルノ委員が言われたように、ネット環境は人それぞれなので、そこは考えないといけないと思う。

**【ブルノ委員】**

まずはアンケートの入り口にたどり着けるかどうかだと思うので工夫してほしい。

→二次元コードなどを利用して誘導する。

**【事務局】**

郵送とオンラインを組み合わせ、回答を増やすように取り組んでいく。

**【浅野委員】**

設問数 51 問のアンケートを外国人市民は答えてくれると思うか。

**【各務委員】**

可児市がアンケートを実施したときは、大変回収率が悪く、Tシャツのプレゼントのほか、市役所やフレビアの窓口に来られた人に付いて、アンケートに記載してもらおうというようなことをした。

しかしそのような方法では、アンケートの回答自体に偏りが多く出てきてしまう。ただ、アンケートに回答してもらうためには、何かお得なことがないと難しいと思う。

**【鷺崎委員】**

当社にいる外国人従業員に私が「アンケートに協力してください」と言えば協力してくれると思うが、おそらく送られてきただけでは回答しないと思う。

アンケートへの協力依頼があれば、当社は協力するが、他の会社がどう思うかはなんとも言えない。しかし無作為に送るより企業にお願いしたほうが確率は上がると思う。

**【事務局】**

ご協力いただきたいところには事前に相談させていただいて、いろんな形で回収率を上げる方法を考えていきたいと思う。

**【近藤委員長】**

今回の意見をもとに、アンケート項目の修正をお願いしたい。修正については今後どのように進めていくのか。

→

**【事務局】**

修正に関しては、できれば事務局と委員長に一任いただければと思う。

**【近藤委員長】**

もし何かお気づきの点があれば、事務局にメールなどでお伝えいただければと思う。

**【事務局】**

修正版を皆様にお送りする。

**【近藤委員長】**

あとどうするかはお任せいただくということでよろしいか。では今後の修正については、事務局の提案通りに進めてもらいたいと思う。

#### (4) 今後のスケジュールについて

資料 3 を用いて事務局より説明した。

## 6. その他

### (1) 次回の会議の予定について

#### 【事務局】

3 月上旬に開催したい。日時については皆さんの予定を調整して決めさせていただければと思う。

#### 【近藤委員長】

欠席の委員がおられたので、今日の内容をお伝えするとともに、欠席した委員のご意見も聞いていただいて、アンケートを詰めていくということによろしいか。

#### 【小山副委員長】

スケジュールの中に市民ワークショップという項目があるが、これは具体的にどういうイメージのものか教えていただきたい。委員も参加できるのか。

→

#### 【事務局】

多文化共生プランを練り上げるためのワークショップになるが、公募で外国人の方、日本人の方を集めたい。中身については具体的には決まっていないが、「どういう問題があるのか」、「そのために何が必要か」などについて、話し合いたいと思う。委員の方の参加も可能なので、皆さんもぜひ機会があれば参加してほしい。

## 7. 閉会